



情報ギャラリー第26号
 発行日 2004年4月30日
 編集 グループ“わ”広報部
 発行者 赤司 松美
 発行元 神戸市シルバーカレッジ
 社会還元センターグループ“わ”
 TEL(078)743-8101 FAX(078)743-8103
 Eメール gallery@wa-net.jp
 ホームページ http://www.wa-net.jp

最後で最初 第6回定期総会を迎えて

グループ“わ”代表 赤司 松美



新緑の季節となり会員の皆様にはお変わり無きこととお察し申し上げます。皆様のご理解とご協力により、来る5月17日

(月)に第6回定期総会を開催する運びとなり、「**未来に向かって新たな発展**」を目指し決意を新たにしています。

このたびの総会は任意団体としての“わ”の最後の総会であり、特定非営利活動法人(NPO法人)としての“わ”の最初の総会でもあります。つきましては皆様のご理解とご協力を戴くためにも、万障繰り合わせの上ご出席戴きますよう心からお願い申し上げます。

特定非営利活動法人として“わ”の今後の対応方針等について簡単に述べさせていただきます。

1 特定非営利活動法人格取得について

2年間の検討期間を経て昨年12月会員への取得説明会、運営委員会の最終審議、および運営委員を設立発起人として法に定められた決議を経て、昨年12月末県に申請書を提出し本年1月に正式に受理されました。その後2ヶ月間の公開期間を満了し、別項掲載の通り4月20日に認証の運びとなりました。総会までには法務局に登記を済ませる予定であります。法人格取得に当たり皆様のご支援とご協力に対し改めて感謝

の意を表します。

2 今後の運営組織について
 総会の決議、承認事項を具体化し推進するため現在企画委員会、運営委員会で運営されておりますが、前者の名称が理事会と変わるだけで実質的な運営形態には変わりなく、今後とも各部会、各地区会代表で構成される運営委員会全員の協力による運営を続けます。本部役員(理事)については7期生、8期生を新たに加える来年度を配慮し、今後の充実した活動に対応可能な陣容で臨む所存です。

3 今後の活動方針について
 法人格取得によって会員の現在の活動を阻害するものは何一つありません。現在の活動を継承しその活動を更に活性化することを基本方針とし諸問題の解決に当たります。責任ある法人団体として内外の期待に応えられるよう努力することと致します。皆様のご活動に対するご意見、お知恵を拝借し前向きに新規分野の活動にも取り組む所存であります。

4 経済基盤の確立について

15年度の決算状況は予定以上の繰越金を計上することができそうですがその内容は内部努力もありますが、カレッジを初めとする外的好意に依存している要素も多いなどまだまだ厳しく、決して安定した状況にあるとは言えません。経済基盤の確立については“わ”の潜在能力を活かした委託事業および助成金獲得に向けてなお一層の努力が必要であると痛感し、今後の重要課題として理事会、運営委員会で討議し活路を拓き推進していくこととします。以上

“わ”からわへ脱皮 県から正式に認証

社会還元センターグループわ

4月20日(火)09:00から県民会館1202号室で特定非営利活動促進法に基づく特定非営利活動法人設立の申請に対して県民政策部県民文化局参画協働課藤原課長から赤司代表に認証書が手交されました。この



後2週間以内に法務局に法人登記をして正式にNPOが誕生します。名称は「特定非営利活動法人社会還元センターグループわ」となり、これまでのものと少し変わります。「神戸市シルバーカレッジ」の既存固有名称や“わ”の二重引用符が登記には受け付けられないためです。今回認証書を受けたのは17団体あり、兵庫県では538団体になりました。全国で第6位だそうです。

総会議案書同封です

従来総会当日会場でお渡ししていた議案書を今回は会報と同封でお手元までお送りしました。当日はお配りいたしませんので総会には必ず各自でご持参ください。(事務局)

本 部

新入会員を迎えて

新規活動続々

KSC 8期生は4月16日現在で別項のように入会登録をしましたが、在学中のグループ学習などの成果を実践に活かそうと新しい活動グループを立ち上げました。興味のある方はそれぞれの紹介文の末尾に記した連絡先にご照会ください。

神戸SP研究会

「神戸SP研究会」のメンバーは医学部などの教育の場で医学生の「医療面接教育」の相手役として、一市民の立場でSP(模擬患者)ボランティアとして参加協力しております。(T&F 078-592-5483 森田 修司)

グループ北棚田

グループ学習の仲間から引き続き北神戸田園スポーツ公園の米作り隊に参加し、運営の手伝いや活動内容をホームページに掲載して紹介につとめている。(T&F 078-592-5483 豊永 哲三)

インドラ(英語劇)グループ

インドラ(英語劇)グループのボランティア活動は8期の英語劇受講者有志でスタートしました。グループ学習も「英語劇と国際交流協力コミュニケーション」をテーマに学習し、色々な施設で英語劇上演によるボランティアをしてきました。卒業後もシルバーカレッジ建学精神に則り“わ”に入会して活動を続けていきたいと思っています。(T&F 078-593-5092 佐伯義昭)

福祉と花の会

神出自然教育園支援グループの中のチームです。参加資格は園芸専攻以外の方ならどなたでも参加できます。作業は月に1回第3水曜日10時から14時30分までです。参加ご希望の方は次までお申込みください。(T&F 078-753-

4502 石川 凱裕)

八園会

園芸8期の卒業生が在学中から行ってきた神戸市自然教育園のボランティア活動を継続するグループです。学校に花を飾り子どもたちが農業体験する実践教育の場作りをお手伝いしています。

(T&F 078-961-1071 梅野 卓男)

シルバークッキング

食文化8期生が卒業を機にあつまり「作るよるこび楽しい仲間」をモットーにグループが誕生しました。福祉施設に食事作りのお手伝いや手作りクッキーによる友愛訪問をいたします。皆様のご協力をお願いします。(T&F 078-593-9446 中島 公子)

パソコンリユース

パソコンは一般家庭、職場で大変身近な存在になっていますが、いまや年間1000万台出荷されるようになりました。進化の最も早い領域ですから市場ストックはすべて遠からず廃棄されることとなります。私たちはこれらを収集し再整備して有効活用していこうという狙いで活動します。ノンプロフィットの事業として継続していけるように仕組みを構築することも大切な中身になります。(T&F 078-991-2363 小林 将悟)

8期入会状況

2004・4・16現在

地 区	8期入会者数
東灘	7
灘	4
中央	3
兵庫	7
北	46
長田	9
須磨	27
垂水	19
西	14
合計	136

パソコン講座

アシスタント募集

昨年度まで学生とOBを対象としたパソコン講座をシルバーカレッジの委託でグループ“わ”が行っていましたが、今年度からカレッジが主導して学生対象の講座を開くことになり、グループ“わ”は、そのアシスタントを担当することになりました。そこでパソコンの知識・経験をお持ちの方にアシスタントをお願いしたく、ご応募をお待ちする次第です。

講座の期間は6月7日から05年3月14日まで。

講座内容は、入門、ワード、エクセル、パワーポイント等。

講座は、月～金の毎日開かれませんが、受講は週1回。

時間 午前コース

9:10～10:20

(月～金の毎日)

午後コース

14:50～16:20

(火、水、木)

詳しくは、グループ“わ”事務局 (Tel 743-8101) までお問い合わせ下さい。

健康づくり・ボランティアに
ご利用ください!

- ・グラウンドゴルフ
- ・スカイクロス
- ・キーボード
- ・ペタンク
- ・シャフルボード
- ・ハンドメガホン

希望者に貸し出します。

問合わせ グループ“わ”事務局

743-8101

部 会	8期入会者数
福祉	24
国際	15
環境	47
文化	45
生きがい	24
合計	155

注：複数入部を含みます。

福祉部会

福祉部会だより

福6-福 芦原 耐子

垂水の海はきょうもガラスの破片をバラ撒いたように朝日にあってキラキラキラ...

福祉部長を仰せつかって(?)手配師! だよと冷やかされながら1年が過ぎました。

福祉部の中にはそれぞれの方がいろいろな方面で活躍しています。福祉部が直接関わっているのは中央区日暮通にある「社会福祉法人イエス団真愛ホーム」で、週2回2人組になって入浴後の整容の介助のボランティアに行きます。そのほか真愛ホームの年中行事1月の初詣、4月の花見、8月の夏まつりに何人かの福祉部のメンバーが参加し協力をしていただいています。車椅子の操作もドライバーの扱いも上手になりました。ほかに昨年の主な活動は6月に垂水養護学校のしあわせの村でのキャンプの介助。例年ならそろそろ依頼のある頃です。9月は「手をつなごうふれあい祭り」しあわせの村の施設の人達をカレッジホールに招いて楽しいひと時を過ごしました。これも続けていきたいと思えます。10月、視覚障害者の方々とダンスパーティーのパートナーを社交ダンス部の協力をお願いし勤労会館でお手伝いしました。今年度もする予定だそうです。11月、勤労会館で子どもを守る会のバザーのお手伝いは兵庫区会と一緒に多くの人達の協力をいただきました。12月は垂水養護学校のトライやるウィークのボランティアを垂水区会の人達と一緒に協力しました。ことしも日時は未定ですが依頼がすでにありましたのでご協力をお願いします。

こうして書き出してみると毎月の入浴後の整容の介助のほかに何かしらのボランティアを依頼されその都度皆様のご協力が助けられ手配師⁷

車いすテニスツアー KOBE OPEN 2004

ボランティアのお願い

国際部会

こともしあわせの村のテニスコートにおいて次の要領で国際車いすテニスが開催されます。従来はグループ“わ”から3、4名のボランティアが参加していましたが、今回は大会全体にわたる支援を依頼されました。延人数にして約130名(1日26名)の支援者が必要です。大会実行委員会の情報によれば、ことしはパラリンピックの年でもあり海外からの参加選手も多くなると予想されています。ボランティア支援の内容は下記の通りです。国際部会だけでは人手不足なので広く皆さま方のご支援をお願いします。

日程：5月18(前日の準備)、19, 20, 21, 22, 23日
時間：08:00~18:00(ただし下記支援内容によって時間は異なります)

内容：

1. 競技用車いすの運搬・道路からクラブハウスまでの後押し、および
駐車場案内・整理 5名(男性)
2. テント張りと片付け・車いすのコンテナからの搬入・搬出
..... 6名(男性)
3. 飲み物・バナナ・弁当係 3名(女性)
4. トイレ巡回 男性・女性各1名
5. 添乗要員 : ホテル~運動公園 2名(男性)
ホテル~関西空港 2名(男性)
ホテル~伊丹空港 2名(男性)
伊丹空港内支援 男性・女性各1名
6. 通訳要員 クラブハウス 2F 2名(男女不問)
ホテルフロント 2名(男性)
ただしPM9:30まで

ご参加頂ける方、ご質問のある方は、

国際部会長 鐘築重治 電話：581-3036

グループ“わ”本部 黒田 宏 電話：583-4435

まで、希望日と上記支援内容をご連絡下さい。打ち合わせについては追って連絡します。

なおKOBE OPENの公式サイト <http://www.kobeopen.com/j/info/03.html> に詳しい日程などがあります。

も無事(?)1年間過ぎました。ありがとうございました。昨年に続いて今年度も福祉部会を5月から隔月第3金曜日午前10時からシルバーカレッジで行いたいと思っています。(1回目は5月21日10時から園芸室で行います)8期生の方もぜひ部会に出席し、福祉部へのご協力をよろしく願いいたします。

1泊2日¥7000の
シニアゆとりプラン

&

4泊5日の
オーストラリアの旅

いずれも同封別刷りのチラシ
ご覧ください

国際部会

国際交流フェア

国7-国 鐘築 重治

2月29日(日)「神戸国際交流フェア2004」がハーバーランドスペースシアター&デュオドームで開催され、「わ」国際部会として出展参加した。

神戸国際交流フェアは1997年1月に「がんばれ!こうべっこ国際交流フェア~GO KOBE! 震災復興2周年」として開催され今回で8回目を迎える。

「神戸国際交流フェア2004」は神戸市を中心とした国際協力・交流団体の連携と協力関係を深めると共に、市民の国際交流の輪を広げる機会とし、参加団体の活動紹介を通じて、神戸の震災復興を実感して貰う場として開かれた。



パネル1枚分巾のブース。ポスターがやや小さかった。

当日は国際交流団体紹介ブース、各国食の紹介屋台、各国文化紹介ステージなどのスペースが設けられ、終日繰り広げられる数々の催しものに多数の人出で賑わった。

「わ」国際部会の紹介ブースは、神戸駅南地下街への階段正面に位置する格好の場所にあり、国際部会の活動紹介を示すポスター展示と、「わ」の紹介資料を配布用として用意した。展示ブースは両隣が台湾、スペインといった友好団体の華やかな観光紹介¹



2日目大会議室で歓迎の挨拶をする神戸市長。画面右下のパソコン切替卓、右上のPRJなどが我々の持ち場

ICBN'04

国6-国 朝日 照夫

2月、神戸国際観光コンベンション協会より5期久保雅一さん宛に国際会議ボランティアの打診があった。会議の名前はICBN'04で、通信と広帯域ネットワークの国際会議と言う英文頭文字をとったもの。

会議は4月7、8、9日の3日間、ポーアイの国際会議場で行われ、毎日9名分の役が割り当てられた。ほかに前日の準備に6名が求められ、1期から8期までの部会員20名が交替で任についた。

ブースであったため、来場者の関心がそちらに向いて素通りが多かった。まじめに説明を聴いてくれる人もいるが、大半の市民の関心の度合いは残念ながら低いと云わざるを得ないように見受けられた。それでも約50部の資料は配布することができた。シルバーカレッジの存在すら知らない市民も多数いて、ここから説明をしなければならず啓蒙の必要性を痛感させられた。

今回が初めての参加であり展示物、配布資料等十分なものは用意できなかったが、反省の上さらに検討を加え次回も積極的に活動紹介を行いたい。

割り当てられたポジションは3箇所だった：

(1)大会議室 5名。ステージ両翼に各2名ずつと2階ギャラリー1名で、講演者への水や、感謝盾、感謝状の用意、照明の切換え、投射パソコンチャンネルの切換え、プロジェクター・シャッターの開閉、質問者へのマイクの手渡し・回収、アンケートの回収など。

(2)クローク 2名。主に駅から直接来られた参加者の荷物などを預かった。

(3)事務局補佐 2名。予め準備できなかったレジメのコピーやスタッフへの連絡などを担当した。

瞬間的に忙しいときもあったが、概して手すきの多い仕事だった。

大会議室では終始会議を見聞きでき、次世代携帯の動向など興味深いものだったが、専門的な略語と出身国の訛りの強い英語で、中身は殆ど聞き取れなかった。しかし参加者は日本人でもどんどん質問する人もいて、若い人達の国際化を感じた。

裏方のつもりだったが、最終日の閉会挨拶で議長が我々にも謝辞を述べてくださり、参加者の拍手を貰ったとき、お役に立てたんだという嬉しさが背中をズーンと貫いて行き、その興奮は翌日まで残った。

環境部会

親子で集まれ 野鳥観察塾

環7-環 吉田 忠史

平成16年2月15日(日)10時から15時までしあわせの村自然公園は真冬にしては穏やかな天気恵まれ、貴重な野鳥の観察とおいしい“トン汁”で体を温めながらの楽しい1日を過ごすことができた。

参加者は16家族(子供17人、大人20人)で、グループ“わ”本部スタッフおよび在校生と「野鳥グループ」のメンバーが講師役を務めた。

午前中は野外活動センター「あおぞら」でパワー・ポイントによる映像を見ながら留鳥、夏鳥、冬鳥、旅鳥等々の一般的な説明を行い、野鳥の食べ物、生息場所等々について詳細に解説をした。野鳥が森の木に付く虫を食べることによって木々の生長を助け、また実を食してその種を遠くに運び、新たな芽を育む役目をしていることを子供達に教えた。

実際屋外で観察するために、双眼鏡の扱い方、野鳥の特徴を覚えて識別する方法等についても詳しく説明



堂坊池付近でベニマシコを観察する親子

した。

野鳥はまた種類によって生活場所が異なり、それぞれが縄張りを確保しながら仲良く生きている。例えばウグイスは藪の中で冬はチェッ・チェッと鳴き、春になるとホーホケキョと美しい声で鳴く。夏鳥のオオルリは高い木の上で天から二物を与えられた美しい声で鳴く。

この日しあわせの村内で観察できた野鳥は合計25種類で、冬鳥のベニマシコ、ジョウビタキ、ツグミ、シロハラ、アオジ等、留鳥のコゲ

ラ、カワラヒワ、セグロセキレイ、キセキレイ、水鳥のマガモ、コガモ、カイツブリ、国内の水鳥で一番大きいアオサギ等が観察され、双眼鏡を通して見る野鳥の美しさに皆大喜びでした。

今後しあわせの村と協力し、子供達や障害者の方を含めた多くの市民が訪れやすい自然環境ゾーンとして市民レクリエーションと結びつけた「野鳥観察」の場に整備されることが望まれる。



探鳥の前に野鳥の説明を熱心に聞く参加者

環境部会

親子で集まれ

炭焼き体験塾

園7-環 富永 征児
(財)長寿社会開発センターの助成で「炭焼き体験塾」イベントをグループ“わ”本部主催、環境部会ケナフの会・里山クラブの協力で、平成16年3月13日(土)10時~12時、シルバーカレッジ中庭で行った。なお当日午後にはカレッジ・ホールで「昔あそび塾」が行われた。

参加人員

当日は暖かい春のような日に恵まれ、18組54名(内子供28名)の参加があった。主催側は赤司代表、“わ”本部スタッフ、環境部会ケナフの会・里山クラブ、在校生ケナフの会等20名が出席し、諸々の準備、指導をした。

炭焼き準備

炭焼き体験塾は初めてのイベントで、炭焼きは1・17阪神震災慰霊に使われた竹を材料とする竹の炭焼きを行うこととし、2月に入ってから竹の貰い受け、竹の切断、6つ割り、天日乾燥等の素材準備を行った。また炭焼炉は奥須磨公園のものを借用してカレッジ中庭に設置した。

実施状況

炭焼き体験塾は、まず美工室で炭焼き方法、炭の種類と効用等を説明し、次のような順序で、炭焼きの体験をして貰った。

(1) 前日炭焼きした竹炭の焼け方・状況の見学

前日炭焼きした竹炭を炉から取り出し、炭の焼け方やできた竹酢液を見せ、素材からどれ位の炭ができるのか、また竹酢液はどんな効用があるのか等の説明を行った。炭焼きしたばかりの炭を見るのは初めての子供達で、皆関心が深かったようであった。

(2) 炭焼炉への竹の装入作業

炭焼きするためには、炭焼炉に備



中央に立っている煙突の下に炭焼炉がある

えつけられた鉄籠に竹を隙間のないようにぎっしり詰め、詰め終わった鉄籠をクレーンで炉の中に入れ、炉の蓋をする。子供達に手袋を着けさせ、我々があらかじめ準備した約48cm長の竹を鉄籠に入れる作業を交代して全員が行うようにした。単純な作業で喜んでくれるか心配していたが、これで炭ができる、ぎっしり詰めないと灰になってしまう等の興味からか、子供達は喜んで作業してくれ、またお父さん・お母さん達も子供がうまくできるように手助けされ、親子の微笑ましいふれ合いが見られた。

(3) 炭焼炉の点火と炭焼き体験

炭焼きは点火後薪を焚きながら、約4時間位で350~400に加熱し、更に350~400に約1時間保持し、その後は炉を密閉し、翌朝迄徐冷する。

当日は、点火し、薪を燃やし、煙突からもうもうと煙が出る様子、炉に備えつけられた温度計の上昇状況や覗き窓から炉内の状況等を見せ、少しでも炭焼きの体験を感じて貰えるように行った。子供達はもうもうとあがる煙や炉内の火の様子等を実際に見て、声を上げる子供もあり、炭焼きに興味を持ち、またある程度の体験感も感じてくれたように思った。そして子供達に前日焼いた竹炭を記念に自分で袋に入れ、持ち帰って貰った。

ふりかえてみよう

最後に「ふりかえりシートに書きましょう」および「ふりかえてみよう」を行った。ふりかえりシートに書かれたこと、ふりかえてみようで述べられたトピック的なことは次のようであった。

炭が350~800(今回の体験塾では350~400)での蒸し焼きによりできることを初めて知り、竹炭焼きを体験し、勉強が楽しかった。

炭には消臭や土をよくする、水をきれいにする等の作用があることを覚えた。

(親御さんから)子供と一緒に勉強し、また作業することはあまりないが、きょう半日子供と勉強し、楽しむことができました。本当にありがとうございました。

所感

当日は午後カレッジ・ホールで「昔あそび塾」も開催され、そちらに参加する方も参加されたと思うが、炭焼きは都会では体験できないことであり、我々の予想以上に親子共々炭焼きの体験を楽しんで貰い、また役立ったと感謝して頂いたように思った。

なお当日の炭焼きは、3月22日(月)NHK-TV関西版で「昔あそび塾」と合わせて放映された。このビデオは“わ”本部に保存されているので興味ある方はご覧下さい。

東灘区会

新入8期生会員 歓迎観桜会と昼食会開催

音5-東 藤井 潤子

絶好のお花見日和になった4月6日(火)、東灘区の会員27名が参加して、8期生新入会員4名の歓迎観桜会と昼食会を催しました。

定刻10時に阪急苦楽園を出発し「夙川公園オアシスロード」から阪神香櫨園までの桜を楽しみました。夙川に沿って約4km続く緑のオアシスロードには、美しい松並木に加え2000本の染井吉野が植えられています。今年は花冷えも何度かあったか両岸の桜はまだまだ見頃で、時折薫風に揺られて花びらがひらひらと舞い落ちる美しい眺めに、思わず歩みを止めてうっとりとしていた会員もおられました。

阪神香櫨園から「香合の美」特別展が開催されている西宮市大谷記念美術館に足を伸ばしました。「香合」は香料を入れる蓋付きの手のひらにおさまる程の小さな器で、茶道具や愛玩の対象として古来より親しまれてきたそうです。今回は半世紀ぶりにカナダから里帰りした日本独特の繊細な江戸時代の作品570点余が展示されておりました。

美しく手入れされた大谷美術館の



桜が満開の夙川公園オアシスロードに集合



庭園で記念撮影、それから「西宮のえべっさん」で親しまれる西宮神社へ参詣、一同「世界平和」と「楽しい老後？」をお祈りしました。

昼食会場「しゃぶしゃぶの木曾路」には13時頃に到着しました。“花見御膳”を頂きながら自己紹介、これからのボランティア活動などを話し合いながら、親睦の楽しい一時を過ごしました。新しい仲間も増え一層の“わ”が広がりそうです。

最後になりましたが今回の歓迎会立案から、行き届いたスケジュールまで作成して下さいました田辺さん(音文6期)有難うございました。d

兵庫区会

8期生歓迎の親睦花見会

生7-兵 大掛 敏夫

兵庫パンジーの会では4月5日(月)10時より、兵庫区役所公会堂

で平成16年度の総会が開催され新会長に宮城さん(音文2期)ほか新役員を選出、新年度の事業計画発表などの議事を終了後、会場を近くの会下山公園に移し8期生新入会員歓迎の親睦花見会が催されました。

花見の親睦会場では満開の桜が昨夜の春雨にうたれてか、ちらほらと花びらがそよ風に舞う、風情のある絶好のお花見日和でした。

和やかな談笑のうちに進んでいた酒宴中、会員のひとりが持参していた幻の名酒「越乃寒梅^{かんばい}」の一升瓶が露見し、我も我もと杯が差し出されあっという間に「越乃完売^{かんばい}」となり、これがきっかけで酒宴はおおいに盛り上りました。

日も少し翳りだした3時過ぎ、名残を惜しみながら、和やかなうちに散会となりました。

d d d



市街が一望できる会下山公園で親睦花見会

垂水区会

舞子ピラで 垂水会総会

H16年度シルバーカレッジ垂水会総会は4月19日(月)、10:30から舞子ピラ神戸の六甲の間に設けた会議室において生環6期の芦原耐子さんの司会で、生環6期の吉崎敏男代表世話人の挨拶に始まり、H15年度の事業報告、会計収支報告、代表世話人を新年度から会長とするなどの会則の一部変更があった後、新年度の役員選出にうつり、国際7期の左右田純一さんが会長に選任されたほか、副会長以下の役員もほとんど7期生、8期生が担当することとなり、無事世代交代が行われた。ついで新会長による新年度事業計画と予算の説明があった。事業は垂水駅ガイドを止める以外はほぼ前年度の事業を踏襲する。予算に関しては費目の分類について意見が出されたが、収支そのものが問われたことでなく、今後の留意事項として討議は打ち切られた。その後改めて新会長の挨拶があって11時半閉会した。



左右田新会長

12時から会場を大広間に移し音文6期の木山圭子さんの司会で懇親会が開かれた。吉崎前代表世話人の挨拶の後、福祉1期の福原克己さんの乾杯の音頭で宴が始まり、会員コーラスのほか、客演のハワイアン・フラダンスや銭太鼓のステージショーで盛り上がった。ピラ自慢のbuffet料理やデザートを十分に堪能し、午後2時、これからの1年の健康と無事を祈って散会となった。

なお新会長の左右田さんが“わ”垂水区会の区会長を務める。

(国6-垂 朝日照夫)



懇親会開会の挨拶を述べる吉崎前代表世話人(左上金屏風前)



ムードに誘われて飛び入りも



この日のために衣装を新調したとか

リサイクルプラザ企画運営業務

委託応募のお知らせ

本部

神戸市では西区見津が丘1丁目(神鉄木津駅徒歩5分)に建設中のリサイクルセンターに併設されるリサイクルプラザの企画運営業務をNPO法人等の団体に委託することになり“わ”にも応募要請があり目下応募準備中です。

リサイクルプラザは地球温暖化防止とごみの減量・資源化に関する情報発信と市民の意識啓発を図るため、全市的な環境教育の拠点として運用されます。(6月1日オープン予定)

業務内容: リサイクルプラザの企画運営等に関する業務(常駐者2名以上)のほかに環境学習講座の企画運営業務、こどもエコクラブ事業、ピオトープの整備管理、当会場での市主催の行事補助など多岐にわたっています。

“わ”の対応: 応募に先立ち環境部会、生環コース卒業生(6, 7, 8期生)に取り急ぎ呼びかけたところ25名の希望者があり対応可能との確信をえて、4月19日応募申請書を提出し、次のステップへ臨んでおります。

受託できたら、再度説明会を開催し参加希望者を中心に環境部会の支援によりプラザの運営管理のほか、環境イベントの開催および支援業務に前向きに取り組むことといたします。会員の皆様の協力をお願いします。

参加希望者で内容を知りたい方は本部までお出で戴くか、問い合わせ下さい。なお委託期間は5月17日より2005年3月31日までとなっております。(3年間まで延長あり)

(赤司 松美)

ティータム

在日ベトナム人が祝う旧正月「テトの集い」について

国6-国 十倉 康夫

“わ”国際部会では在日ベトナム人が組織する“NGOベトナム in KOBE”と数年来のお付き合いを保っているため、同NGO主催の彼等が祝う「テトの集い」について従来からの経緯を含めて参考までにご披露します。

兵庫県下、特に神戸市内には多くのベトナム出身者が在住しているが、彼等は2001年にベトナム人自身の自助組織として“NGOベトナム in KOBE”を立ち上げた。当初NGO代表者は在日約20年のマン(Man)牧師であったが、昨年在日約20年の女性ガ(Nga)さんが引継いだ。NGO傘下の同胞と言っても在日経験年数の長短、老若年齢差による考え方の違い、母国語に疎遠な日本生まれの新世代、資金集めの苦労、機関紙発行等仲間の啓蒙や組織固めにガさんは多忙な様子。

国際部会では難民事業本部関西支部(外務省の外郭団体)の紹介により創設間もないころNGO本部(長田区の鷹取カトリック教会内)を訪問、我々として無理なくできるボランティア活動をマン代表と打ち合わせた結果、娯楽が少ない高齢者をシルバーカレッジ学園祭に招くこと、ベトナム産品を販売して彼等の資金造りにいささかの協力をすることを打ち合わせ、2001年の学園祭から実行。昨年の学園祭まで計3回、国際部会男女部員の協力によりベトナム春巻・ベトナムコーヒー等を来場者に飲食して頂けるようになりガさんに喜んでもらっている。

表題のベトナム人が祝う旧正月「テトの集い」は、同NGOがマリスタ国際学校(須磨区)を借り、ベトナム人3百人位に邦人仲間も加わって毎年新春に開催。この「テト」の催し物には、国際部会の有志や文化部会メンバーの協力も得て手品・新舞踊等の演目を披露し昨年、一昨年ともに好評であった。若手のベト



紙芝居もあって...



民族衣装のショー

ナム人仲間が心身共に成長してきたのでことはベトナム人自身の手ですべてを取り仕切ってみようとのNGOの方針により協力出演の依頼は無かった。小生はマリスタ学園の近くに居住している国際部会の一部員だが、偶然出会ったガさんから「テトに来て頂戴よ」と声をかけられたので顔を出してみた。従来同様の盛況で難民事業本部の顔なじみも家族連れで参加していた。

ことしの「テトの集い」については偶然会ったガさんから個人的に知らせて貰うまで小生は開催情報に接し得なかった。“わ”本部には「テトの集い」の案内を郵送済みとのガさんの話に間違いがなければ、恒例行事ゆえ国際部会の例会議事録に一言PRして部員の参加勧誘を募る手だてを打ってあげると例会欠席者にも情報が伝わり“わ”としてのNGOに対する気遣いや親切心が発揮できるのではなかろうか。“わ”のNPO法人化の事業目標には「外国人への生活助言・支援事業」が謳われているのだから数年来のお付き合いがある“NGOベトナム in KOBE”との友好関係を緊密化する心遣いが“わ”のメンバーには課されているのではなかろうかと“情報ギャラリー”への寄稿を依頼された機会に一言私見を呈します。

春日野道まちづくり協議会でマジックを披露

音6-中 湯口 澄比古

中央区八雲通にある市立春日野道地域福祉センター、八雲児童館にて2月21日(土)地域の高齢者に婦人会も参加し、約50名の方々が“ふれあい食事会”を開き、それにお招きを受け出席をしました。マジッククラブ代表の中川安庸さん(生環6期)、森田明朗さん(国際8期)、浅原サチ子(福祉8期)そして司会進行役に湯口澄比古の4名です。もちろんマジックでボランティアをさせていただきました。

会場へ着くとまず食事を皆と一緒にと誘われ、ご馳走になりました。にわか作りの舞台、つまりテーブルを使い3人が交互に妙技を披露しました。車椅子の老人ホームでは、拍手も無く笑声も聞けず静かな雰囲気でしたが、ここでは皆元気な高齢者ばかりで、少しでもトチればヤジも飛び、妙技には歓声と拍手、笑い声もわき喜んで貰ったひと時でした。

福祉センターの世話役の方に、ネタを変えてまたやって下さいと、お礼の言葉と共にお願いされました。健全な高齢者の人たちへのボランティアはやはり少し気を使いますが、反応もはっきりあり、それなりにやり甲斐があるものだと思います。



近郊ウォーキング



手前が太郎、奥が次郎

有馬道と住吉川の水車

生4-東 廣川 幾雄

有馬街道といえば平野から祇園さんの下を通り、鈴蘭台へ行く428号線がよく知られているが、住吉から六甲山を越えて有馬へ行く山越えの有馬道もある。江戸時代には湯山間道と呼ばれ、北摂から酒造米を運ぶ道として細々と用いられてきたが、明治のはじめ鉄道が敷設され住吉に停車場が設けられると、有馬へ行く最短の道としてにわか活況を呈するようになる。有馬道とはこの時つけられた名である。

大阪から汽車で住吉まで来て、ここから駕籠に乗って山越えをし、有馬温泉に湯治に行くのは当時の金持ちの豪華旅行だった。住吉の停車場には常時40～50挺の駕籠が客待ちをしていたという。現在同じ場所はタクシー乗り場になって同じく客待ちをしている。

有馬道の正式の起点は本住吉神社の東で西国街道(国道2号線)と分かかれゆるやかな坂を登るが、現在はJRのガードをくぐって有馬道商店街に入る。ここに有名な豆腐屋があって、いつも客が列をなしている。よほどおいしいのだろう、芦屋、西宮から電車で買いに来る人もいるという。その向かいの東神戸病院では道が狭いので救急車が苦勞している。有馬道はこの先白鶴美術館前を

通って、五助ダム、風吹岩から本庄橋で、深江から来た魚屋道と合流し六甲山頂へ至るが、今回は本格登山はやめにして、最近新設された水車を見学することにしよう。

山手幹線を横断し、阪急電車をくぐると住吉中学がある。中学校の先で道が二つに分かれているので左に進むとすぐに山田区民会館がある。ここに水車が2台まわっている。大きい方が太郎水車、小さい方が次郎水車と名付けられ、太郎は搗臼を次郎は挽臼を動かしている。

六甲山地から流れる中小河川はいづれも急流であるため、古くから水車業が盛んに行われていた。江戸時代後期、水車は油絞りに大きな力を発揮し灘地方は良質な灯油の産地として有名になる。一方酒づくりにおいても、精白度の高い水車搗きの米は灘の生一本の名を全国に高めた。最盛期には臼の数一万余といわれた程だが、昭和13年の水害で流失し、昭和42年の水害でさらに被害を受け、最後の水車も昭和56年に火災によって姿を消してしまった。

今日、関空へ通じる湾岸道路を走ると魚崎の海岸に製粉、製油の工場が並んでいるのに気付くが、水車が地域産業発展に大きな役割を果たした足跡と見ることができる。終(東灘区歴史掘り起こし隊資料集を参考にしました)

兵庫パンジーの会が受賞 ひょうご県民ボランティア活動賞

福祉のボランティアなど「兵庫パンジーの会」の地域での活発な、長年にわたる活動が評価され、さる1月24日(土)、宮城さん(音文2期)、三島さん(福祉1期)が出席してハーバーランドのスペースシアタにおいて井戸兵庫県知事より団体表彰を受けました。当日授与された表彰盾は4月5日(月)パンジーの会総会の席上会員に披露されました。



編集後記

足掛け3年、7回にわたって連載しました「近郊ウォーキング」が今回で終わります。神戸への愛着をさりげなく滲ませながら故事への結びつきを紹介するこのコラムを楽しみしておられた方も多いと思います。筆者の廣川さんに心からお礼を申し上げます。(サン)

私たちはNPO法人グループの一員として新たなスタートを切ることになりました。従来の活動に加え一般市民を対象にした「まちづくり支援」など環境問題にまで行動範囲が広がり、私たちの潜在知識、技能の活用される機会が増えると思われれます。

各施設、行政からの照会に対応するパターンから、パートナーとしての立場を構築、活動して行く時期が来たと思うのですが、入れ込み過ぎかな。(ST)